

果色の濃いピーマン「高育交11号」の特性

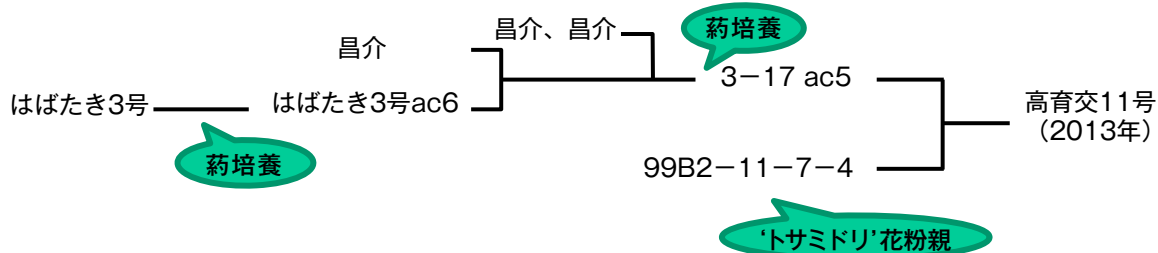


図1 育成経過

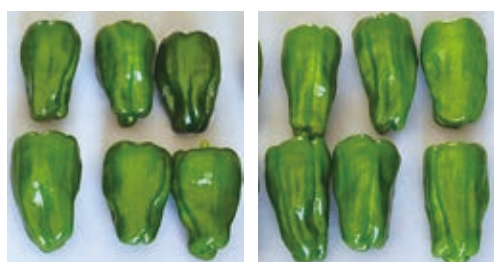


写真1 果実比較



写真2 「高育交11号」

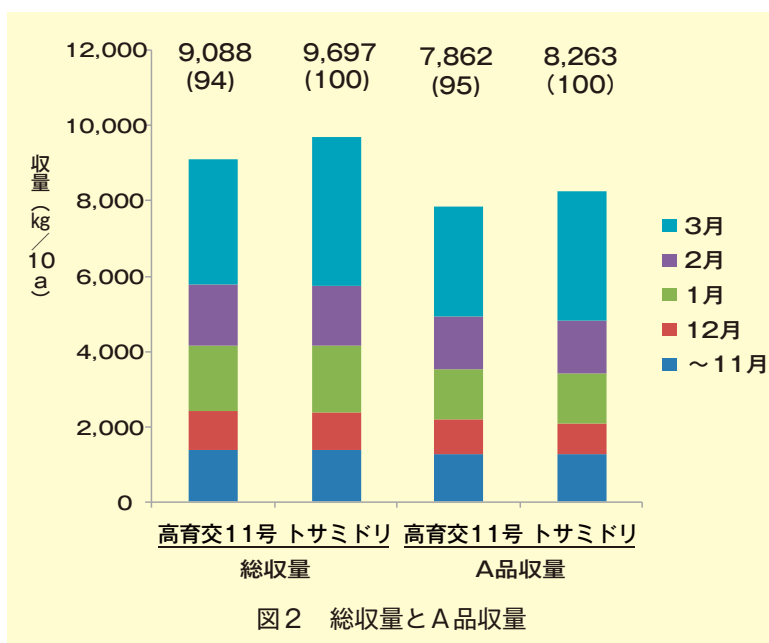


図2 総収量とA品収量

2009年から「果色の濃い促成栽培用ピーマン品種の育成」として、「トサミドリ」並の優れた特性（良果形、多収性）を持ち、果色の濃いピーマン品種の育成に取り組んできました。

市販の濃果色ピーマン品種「はばたき3号」を材料にして薬培養を行い、果実特性や収量性に優れた「はばたき3号ac6」を選抜しました。「トサミドリ」の子房親系統の特性（分枝性、多収性）により近づけるため、「昌介」×「はばたき3号ac6」に「昌介」を2回戻し交配し薬培養を行い、「3-17 ac5」を選抜しました。「3-17 ac5」と「トサミドリ」の花粉親である「99B2-11-7-4」を交配し、「高育交11号」を育成しました（図1）。

「高育交11号」は「トサミドリ」に比べて、果色は濃緑で果実の光沢がやや強く、しわが少ない特性を示します（写真1）。また、果肉はやや厚く硬めで、果形がやや短くなる傾向がみられました。栽培初期の草勢はやや弱いですが、摘心時には「トサミドリ」並になります。2013年度3月末までの生産力検定の結果、「高育交11号」の総収量およびA品収量は「トサミドリ」よりやや少なくなりました（図2）。

現在、土佐市、安芸市および芸西村で現地適応性を検討中です。

今後も引き続き、生産力検定を行う予定です。

（園芸育種担当 細美祐子 088-863-4916）